

英語科学習指導案

日時 平成 30 年 6 月 1 日 (金) 公開授業 I
学級 岩手大学教育学部附属中学校
2 年 A 組 40 名
会場 3 B 3 C 教室
授業者 大瀧 航

1 単元名 Lesson 3 The Ogasawara Islands (NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 2)

2 単元について

(1) 生徒観

これまで生徒は、be 動詞や助動詞 can, 理由の述べ方, 文の構成, 会話の続け方について学び, 様々な言語活動において活用している。語彙や文法事項などの習得に終始せず, 春休みの絵日記や自分史を書くこと, 物語を読み要約して紹介することなどを通して, 実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語を学習してきた。

授業では, ペア学習やグループ学習において, 自分の考えを伝えようと意欲的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうと多くの生徒が学習に取り組んでいる。これまでの授業では, 自分の発話に主眼を置いてきたが, 実際のコミュニケーションは他者との関わりの中で行われるものである。そこで, 言語活動の際に相手の話をよく聞いたり, 感想やアドバイスをしたりするなど, 相手意識をもって取り組ませたい。そのため本単元では, スピーチ発表の練習にルーブリックを活用することで, より相手を意識したスピーチができるように相互の関わりを充実させたい。

単元の最初に, 「未来の地球のためにできること」について, 学級の 40 名中 35 名が既習事項の”can”などを用いて表現していた。しかし, その内容に着目すると, 単文や文の構成が不十分なものが多く, 理由や具体例を挙げたまとまりのある文章はほとんど見られなかった。生徒の振り返りを見ると, 表現したい内容はあるが, それを表現するために必要な知識・技能である語彙や文法が分からないことが挙げられていた。そのため本単元では, 教科書に出てくる語彙だけにとらわれず, 環境問題についての語彙も言語材料と関連させながら繰り返し練習をしていく。さらに, 構成 (Opening・Body・Closing) についても言語活動の中で意識させることで, 表現の充実を図りたい。

(2) 教材観

本単元は, 新『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(4) 話すこと [発表] ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて, 考えたことや感じたこと, その理由などを, 簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする」にあたることを考える。

この単元では, 小笠原諸島に関する話題が題材として取り上げられており, 環境問題について考える単元である。アースフェスティバルに関する対話と小笠原諸島に住む人々の願いを通して, 未来の地球のためにできることについて考えを深めさせたい。言語材料としては, 未来の表現 (will, be going to), 接続詞 that を学習する。環境問題に関する学習を通して得た情報を整理した上で, 「未来の地球のためにできること」について, 本単元やこれまでに学習した内容を活用させ, まとまりのある内容で表現させたい。

小学校外国語活動及び外国語科においては, 以下の目標に則り学習をすることから, 身近な事柄から社会的な話題へと見方を広げ, 多面的な角度から「未来の地球のためにできること」というテーマについて考えさせていきたい。また, 前後の文のつながりや段落構成など, まとまりのある内容を話させるために授業を展開していきたい。

○小学校第 3 学年及び第 4 学年 外国語活動の目標 話すこと [発表] ウ

「日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 人前で実物などを見せながら, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。」

○小学校第 5 学年及び第 6 学年 外国語科の目標 話すこと [発表] ウ

「身近で簡単な事柄について, 伝えようとする内容を整理した上で, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。」

(3) 学びの本質に迫る指導とその評価について

本校英語科では、新学習指導要領の完全実施に向け、今までの学びの本質を、文部科学省が示した外国語科における「資質・能力」と、本校学校教育目標「よく考え、誠をもって働く人間」に沿って整理し直した(教科論参照)。それを踏まえて本單元における学びの本質を、『未来の地球のためにできること』というテーマについて、単元で学んだ言語材料や環境問題に対する様々な考えをもとに、自分の考えを形成し、構成に注意しながらスピーチすることとする。その上で、視点3「生徒と共に作るルーブリック」と視点6「毎時間の意欲・態度の見取り」に重点を置いて授業を展開していく。

視点3「生徒と共に作るルーブリック」

スピーチ発表を実施する上で、ルーブリック(成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語からなる評価基準)を作成、活用し、学習者のパフォーマンスの質的向上を図る。ルーブリックは、自らの実態を客観的にとらえ、主体的に目標に向かうことができるようにするため、教師からの一方的な提示ではなく、生徒と共に合意形成を図りながら作成し、活用することが望ましいと考える。「未来の地球のためにできること」についての情報を整理し、スピーチをするうえで「何を」「どれくらい」できれば良いかを吟味することで、生徒の自己評価、相互評価能力の向上にもつなげたい。

視点6「毎時間の意欲・態度の見取り」

英語科における「主体的に学習に取り組む態度」とは、英語の学習を通じて「自律的・主体的にコミュニケーションを図ろうとしている」こと、「他者を尊重し、相手に配慮しながら、自己表現をしようとしている」ことである。「資質・能力」の多くは、単元等のまとまりを通じて見取るものであるが、「態度」については、単元等の学習を経て成長した姿からのみならず、日々の学びに向かう姿勢からも見取ることができる。毎時間の言語活動の様子を観察したり、リフレクションシートへの記述内容を読み返したりすることで、生徒の毎時間の頑張りを学期末の総括的評価につなげていきたい。

3 単元の指導計画および評価計画

(1) 育成を目指す資質・能力

| 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 未来の地球のためにできることについてスピーチをするために必要な語彙、文法（未来の表現、接続詞 that）を関連付けて活用できる力。 | <ul style="list-style-type: none"> 未来の地球のためにできることについての情報を整理し、自分の考えを分かりやすく伝える力。 | <ul style="list-style-type: none"> 未来の地球のためにできることについて、聞き手に配慮し、分かりやすい英語で伝えようとする態度。 未来の地球のためにできることについて、話し手のスピーチを共感的かつ意欲的に聞く態度。 |

(2) 指導目標

- ①環境問題についての情報を読み取り、未来の地球のためにできることについての自分の考えを分かりやすく伝えさせる。
【思考力・判断力・表現力】
- ②未来の地球のためにできることについて発表するために必要な語彙、文法（未来のことについて表現、接続詞 **that**）について正しく理解させ、適切に使わせる。
【知識・技能】
- ③聞き手、話し手が相互に配慮し合い、共感的にコミュニケーションを図る態度を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 評価規準

| 観点 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|---|
| ○ 迫るための評価 | <ol style="list-style-type: none"> ①①単元で学習する語彙の形、意味、使い方を理解しており、実際の場面で使う技能を身に付けている。 | <ol style="list-style-type: none"> ①①話すこと〔発表〕 未来の地球のためにできることについての情報を整理し、未来の地球のためにできることについて分かりやすく伝えることができる。 〔視点1〕内容 〔視点2〕構成 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①話し手 未来の地球のためにできることについて、聞き手に配慮し、分かりやすい英語で伝えている。 〔視点1〕目線 〔視点2〕声量 〔視点3〕間</p> <p>②聞き手 未来の地球のためにできることについて、話し手に配慮し、共感的かつ意欲的に聞いている。 〔視点1〕目線 〔視点2〕相づち、うなずき 〔視点3〕コメント</p> <p>③テーマについて関心をもち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。</p> </div> |
| ● 迫ったかを見とる評価 | <ol style="list-style-type: none"> ②②単元の新出文法（未来の表現、接続詞 that）を含む文について、形、意味、使い方を理解しており、実際の場面で使う技能を身に付けている。 | <ol style="list-style-type: none"> ①②書くこと 未来の地球のためにできることについて、自分の考えを再構築した上で、まとまりのある文章を書くことができる。 〔視点1〕内容 〔視点2〕構成 〔視点3〕正確性 | |

※網掛けの項目については、パフォーマンス評価として質的な評価を行う。

(4) 指導と評価の計画

| 時 | 学習課題 ・ 学習内容 ◆ 指導の留意点 | 評価規準 | 評価の観点 | | |
|---------|---|---|--------|----|----|
| | | | 知技 | 思考 | 態度 |
| 1 | <p>Let's think about the beauty of nature. (Introduction)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本単元のゴール（「未来の地球のためにできること」についてスピーチを行うこと）を知る。 単元の学習の流れを確認する。（リフレクションシート） 「未来の地球のためにできること」について自由に記述し、交流する。（Before Lessons） <p>◆既習表現などを用いて、自力で記述させる。 ◆スピーチを行う際に必要な情報を考えさせる。</p> | <p>③ 環境問題について関心をもち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。</p> | | | ③ |
| 2 | <p>Let's think about plans. (GET1)</p> <ul style="list-style-type: none"> will を含む文の構造を理解する。 will を含む文をつくる練習をする。 オリジナルのスキット作りを通して、will を用いて表現し、英語で交流する。 <p>◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。</p> | <p>①② 新出語彙や will を含む文の形、意味、使い方を理解している。</p> <p>③ オリジナルのスキット作りを通して、自分の考えを積極的に相手と交流している。</p> | ① ② | | ③ |
| 3 | <p>Let's talk about your schedule. (GET2)</p> <ul style="list-style-type: none"> be going to を含む文の構造を理解する。 be going to を含む文をつくる練習をする。 本文の会話の続きを考え、be going to を用いて英語で交流する。 <p>◆will と be going to の用法の確認を行う。 ◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。</p> | <p>①② 新出語彙や be going to を含む文の形、意味、使い方を理解している。</p> <p>③ 予定について、自分の考えを積極的に相手と交流している。</p> | ① ② | | ③ |
| 4 | <p>Let's think about the environmental issues. (GET3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 接続詞 that を含む文の構造を理解する。 接続詞 that を含む文を作る練習をする。 接続詞 that を用いて、環境問題に対しての自分の考えを英語で交流する。 <p>◆環境問題に対しての自分の考えを表現させる。 ◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。</p> | <p>①② 新出語彙や接続詞 that を含む文の形、意味、使い方を理解している。</p> <p>③ 環境問題についての関心をもち、新出表現を用いて交流している。</p> | ① ② | | ③ |
| 5 本時 | <p>Let's read and talk about the environmental issues. (GET のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化についての資料を読み、概要を理解する。 地球温暖化に対しての自分の考えを、ペアを変えながら繰り返し交流する。 話したことをもとに自分の考えを書かせ、整理する。 <p>◆視覚的な情報を与え、イメージしやすい環境をつくる。</p> | <p>① 地球温暖化についての情報を整理し、自分のやりたいことや地球への願いを英語で発表することができる。</p> <p>③ 地球温暖化について関心を持ち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。</p> | | ① | ③ |

| | | | | | |
|---|---|---|--------|--|--------|
| 6 | <p>Let's read what the people in the Ogasawara Islands think. (USE-Read)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の内容を読み取る。 相手を意識して音読練習を行う。 人々の願いや思いに注目して、どのような表現を使っているか確認する。 ◆振り返りでどのようにスピーチを行うと、話し手に伝わるか考えさせる。 | <p>①②新出語彙や新出文法を含む文の形、意味、使い方を理解している。</p> <p>③小笠原諸島の人々の思いについて関心をもち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。</p> | ① ② | | ③ |
| 7 | <p>Let's learn how to write opinions. (USE-Read)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の内容確認を英問英答で復習する。 教科書本文の構成に注目させる。 教科書内容をリテリング、リライトする。 ◆どのような意見文の構成にすると相手に伝わりやすいか考えさせる。 | <p>①②小笠原諸島について読み取った情報を再構築し、伝えたり書いたりすることができる。</p> <p>③小笠原諸島の人々の思いについて関心をもち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。</p> | ① ② | | ③ |
| 8 | <p>Let's save the earth. (USE Write まとめ-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチの構成について、教科書を例に学ぶ。 「未来の地球のためにできること」についてのメモを作成する。 メモをもとに4人グループで発表しあい、ルーブリックをもとに相互評価を行う。 「地球のためにできること」についての意見文を構成に気をつけながら書く。 スピーチの練習をする。 ◆様々なペアでスピーチを練習し合う中で、相互チェックの機能を高めさせる。 | <p>①②未来の地球のためにできることについて自分の考えを再構築した上で、まとまりのある内容を伝えることができる。</p> <p>③未来の地球のためにできることについて関心を持ち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。</p> | ① ② | | ③ |
| 9 | <p>Let's save the earth. (USE-Write まとめ-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチのリハーサルを行い、最終調整を行う。 スピーチ後に、ペアの人がルーブリックを用いながら良い点や改善点、感想を述べる。 発表を相互にiPadで撮影する。(VTR評価に使用) 代表者数名が学級の前で発表する。 ◆聞き手の役割にも注目することで、スピーチしやすい雰囲気をつくる。 ◆より良いスピーチを、ルーブリックを用いた相互評価で作り上げる。 | <p>①単元で学んだ環境問題についての情報を整理し、未来の地球のためにできることについて分かりやすく伝えることができる。</p> <p>①未来の地球のためにできることについて聞き手に配慮し、分かりやすい英語で伝えている。</p> <p>②未来の地球のためにできることについて、話し手に配慮し、共感的かつ意欲的に聞いている。</p> | ① | | ① ② |

| | | | | | |
|----|---|---|----------|----------|--|
| 10 | Review the Lesson 3. (テスト) ・ 単元テストを行い、語句や文法の定着を確かめる。 ・ 単元の学習の振り返りを行う。(リフレクションシート) ・ 地球の未来について、自由に記述する。(After Lessons) ・ Lesson 3 を通しての学びの振り返りを記入する。(リフレクションシート) ◆ 単元の学習を通してできるようになったこと、成長したことを共有する。 | ①② 単元の新出語彙や単元の新出文法、未来の表現、接続詞 that を含む文についての使い方を正しく理解している。 ② 未来の地球のためにできることについて自分の考えを再構築した上で、まとまりのある文章を書くことができる。 | ① | ② | |
|----|---|---|----------|----------|--|

4 本時について

(1) 主題 Let's read and talk about the environmental issues.

(2) 指導目標

- ・ 地球温暖化についての情報を整理し、これからやりたいことや、地球への願いを分かりやすく英語で伝えさせる。
- ・ 地球温暖化についての関心を持ち、自分の考えや気持ちについて相手と積極的に交流させる。

(3) 評価規準

- ① 地球温暖化についての情報を整理し、自分のやりたいことや地球への願いを英語で発表することができる。 **【思考力・判断力・表現力】**
- ③ 地球温暖化について関心を持ち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

(4) 指導および評価の構想

本時は GET 1 ～GET 3 のまとめの活動の時間であり、単元を貫く「未来の地球のためにできること」というテーマについて、環境問題に関する資料を読む。その上で、地球温暖化の原因について自分の考えや感じたことを伝える時間である。

導入では、前時までの復習を行い、言語材料や本文の内容の確認を行う。既習事項の確認を行いながら、本時の学習課題の提示につなげたい。

展開では、地球温暖化に関する資料を個人で読み取らせ、ペアで内容を確認する。その後、地球温暖化の原因について、自分の考えをペアで交流する。さらに、教師からモデルを提示することで、文の構成の視点を生徒と共有したい。

展開の終盤の活動として、地球温暖化に対しての自分の考えを、ペアを変えながら繰り返し交流する。交流後に、話したことをもとに自分の考えを書かせ整理させたい。

終結ではリフレクションシートを用いて、本時の振り返りを行う。活動を通して学んだこと、考えたことなどを記述させ、本単元のゴール活動である、「未来の地球のためにできること」についてのスピーチ発表へ向けて意欲づけを行いたい。

(5) 本時の展開

| 段階 | 学習内容および学習活動 ■ 学びの本質に迫る指導の工夫 ・ 予想される生徒の反応等 | 時間 (分) | 評価規準および評価方法 ○ 学びの本質に迫るための評価 ● 学びの本質に迫ったか見とる評価 |
|-----------------------|--|---|---|
| 導入 | 0 3分前学習 ・ 英語の歌”Love story”を歌う。 1 あいさつ 2 復習 ・ 言語材料の口頭練習を行う。 ・ 教科書内容を活用したインタラクションを行う。 3 オーラルイントロダクション ・ 環境問題についての会話を聞く。 4 ゴールの確認 ・ 本時のねらいを共有する。 | 10 | |
| 地球温暖化についての自分の考えを伝えよう。 | | | |
| 展開 | 5 資料読み取り ・ 地球温暖化についての資料を個人で読み取る。 ・ ペアで資料の内容について交流する。 6 地球温暖化についての自分の考えを伝える Step 1 ペア活動 ・ 地球温暖化の原因について、自分の考えをペアで交流する。 ・ 代表数名が発表する。 Step 2 モデル提示 ・ 教師のモデル文を聞く。 ・ 教師とやりとりを行う中で構成を意識する。 ・ 構成メモを見ながら、自分の発表の仕方について考える。 ■ スピーチを行う上での大事な視点を想起する。 Step 3 自分の考えを相手に伝える。 ・ ルールの確認を行う。 ・ ペアを変えて、繰り返し練習する。 ■ 相手の発表に対してコメントや質問を行う。 Step 4 自分の考えについて再構成する。 ・ 自分が話したことについて整理し、再構築して英語で書く。 | 10 5 5 10 5 | ①地球温暖化についての情報を整理し、自分のやりたいことや地球への願いを英語で発表することができる。 【思・判・表】 ③地球温暖化について関心を持ち、自分の考えや気持ちについて積極的に相手と交流している。 【態度】 |
| 終結 | 7 学びの振り返り (Reflection) ・ 本時を振り返っての学びの振り返りを記入する。 8 次時の確認 ・ 単元末のゴールを再度確認する。 9 あいさつ | 5 | |